

遡上アユを増やすための産卵場造成時期 ～孵化時期の盛期からの推定～

水産研究部 浅海・内水面グループ

1. 研究の背景

大野川や番匠川などの河川漁協では、アユ資源を増やすために産卵場造成等の取組が行われている。しかし、その効果は増水等により3週間程度で消失するため、産卵のタイミングに合わせて産卵場を造成する必要がある。

当内水面チームでのこれまでの調査結果から、春に海から遡上してくるアユの孵化時期が遅くなっている傾向がみられた。そこで、近年の遡上アユの孵化時期の盛期から産卵時期を逆算し、効果的な産卵場造成時期の推定を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

○遡上アユの孵化時期および盛期

・遡上アユの孵化時期の盛期は、採捕日の投網1回あたりの採捕尾数から遡上量を推定し、孵化時期を旬ごとに集計し、相対度数のデータで求めた。

【遡上アユの孵化時期の盛期】

瀬戸内海に注ぐ河川：11月中旬～12月上旬

豊後水道に注ぐ河川：11月下旬～12月下旬



写真1 調査河川と採捕場所

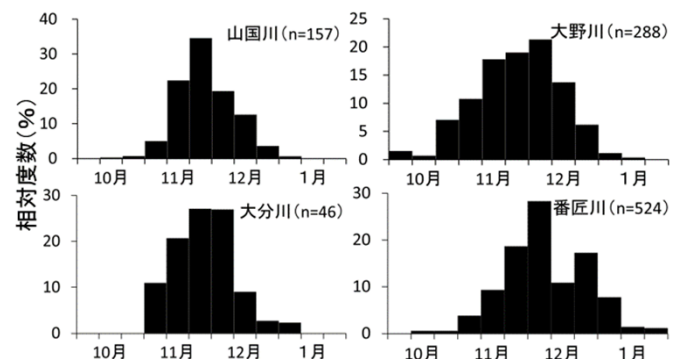


図1 調査河川における遡上アユの孵化時期の分布

○産卵場造成時期の推定

・産卵時期は産卵から孵化までの日数（孵化日数）を調べ、孵化時期から逆算した。

【産卵場造成時期】

瀬戸内海に注ぐ河川：10月下旬

豊後水道に注ぐ河川：11月上旬

3. 期待される効果

孵化したアユが海域で生き残りやすい時期に合わせて、産卵場造成を行うことにより、翌春の遡上アユの増加が期待される。また、アユ資源増殖のための効果的な漁獲規制（産卵保護期間、産卵保護区域の設定等）につながることを期待される。

4. 担当機関連絡先

水産研究部 浅海・内水面グループ 内水面チーム

TEL：0978-44-0329

住所：大分県宇佐市安心院町荘42